

## 週報

## 感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成 28年												平成 29年																
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月 ~7日	5月 ~14日	5月 ~21日	5月 ~28日	6月 ~4日	6月 ~11日	6月 ~18日	6月 ~25日	7月 ~2日	7月 ~9日	7月 ~16日	7月 ~23日	7月 ~30日
カンピロバクター	72	56	111	153	116	189	214	150	101	118	66	84	61	68	80	122	9	30	19	25	24	34	31	29	24	26	45	20	27
病原性大腸菌	140	146	163	167	150	157	240	182	166	227	180	147	107	105	89	113	6	7	37	14	27	60	26	22	30	53	39	38 (43)	41
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	3	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
サルモネラ	12	4	2	8	12	4	19	21	12	16	4	6	0	1	7	11	2	2	3	3	4	2	3	4	3	2	6	1 (2)	3
黄色ブドウ球菌 MSSA	23	20	25	14	19	32	14	24	23	27	8	15	6	11	12	15	2	5	1	1	8	0	9	4	7	6	6	4	9
黄色ブドウ球菌 MRSA	11	11	16	21	20	27	24	19	19	18	14	20	16	19	13	17	5	4	3	3	5	3	11	4	6	10	5	3	3
腸炎ヒブリオ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	0	3	3	1	9	10	9	4	2	2	0	2	1	3	0	0	0	0	2	1	1	1	0	0	0	2 (5)	3
ロタウイルス	4	19	29	24	29	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	6	0	1	3	2	1	0	2	0	0	1	0	0	0
アデノウイルス	2	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	20	20	5	9	2	2	5	0	0	0	0	21	7	4	8	6	0	2	7	2	4	2	1	6	2	4	1	1	0

\* ( ) は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。  
\* その他の3件は、それぞれ、アエロモナス (1件)、プレジオモナス (2件) でした。

### 広島県感染症発生動向週報

平成29年第30週(7月24日~7月30日)

#### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	7	結核	7	1		1		4	1	
三類	4	腸管出血性大腸菌感染症	4		1			1		2
四類	4	重症熱性血小板減少症候群	1			1				
		日本紅斑熱	2					1	1	
		レジオネラ症	1						1	
五類全数	4	アメーバ赤痢	1					1		
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1				1			
		梅毒	2					1		1

注) 西部 … 大竹市、廿日市市、府中市、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島市、江田島市  
東部 … 三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町  
西部東 … 竹原市、東広島市、大崎上島町  
北部 … 三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第30週 7/24~7/30)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

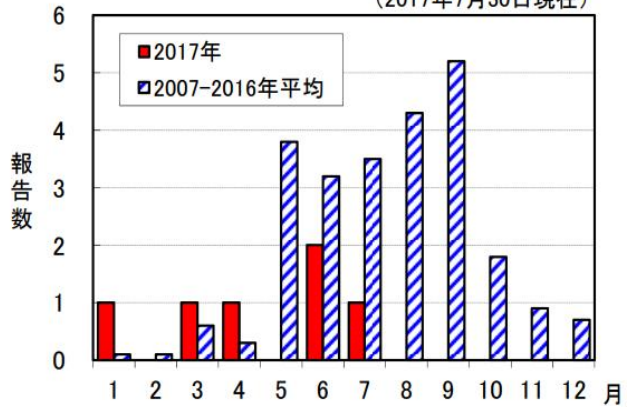
1. 腸管出血性大腸菌感染症

1件(O157)の報告があり、今年の累計は6件となりました。

例年、気温の高い時期に報告数が多くなっており、注意が必要です。手洗いの励行、食品の十分な加熱など感染予防対策を徹底しましょう。

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数(広島市)

(2017年7月30日現在)



2. RSウイルス感染症

定点当たり1.42人の報告があり、前週の約3.8倍に増加しました。

例年冬季に流行していましたが、ここ数年は夏から秋にかけて報告数が増加する傾向にあり、今後の動向に注意が必要です。手洗いの励行や咳エチケットなど感染予防対策を心がけましょう。

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	
小児科	インフルエンザ	-	-	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	2	0.08	0.81		
小児科	咽頭結膜熱	9	0.38	0.70		眼科	RSウイルス感染症	34	1.42	0.20	↑	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40	1.67	1.46	↔		急性出血性結膜炎	1	0.13	-		
	感染性胃腸炎	71	2.96	3.80	↔		流行性角結膜炎	9	1.13	1.10		
	水痘	8	0.33	0.65			細菌性髄膜炎	-	-	0.03		
	手足口病	188	7.83	3.11	↔		無菌性髄膜炎	-	-	0.17		
	伝染性紅斑	1	0.04	0.30			基幹	マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.20	
	突発性発しん	8	0.33	0.52				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	-	-	0.08				感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	12	0.50	2.03	↔							

急増減 ↑ (前週と比較しておおむね1:2以上の増減)

増減 ↔ (前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減)

微増減 ↓ (前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減)

横ばい ⇄ (ほとんど増減なし)

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	89	男性(30歳代)・推定感染地域:国外・1人、女性(40歳代)・1人、女性(60歳代)・1人、男性(70歳代)・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	6	女性(10歳代)・O157
5	アメーバ赤痢	1	9	女性(50歳代)
5	梅毒	1	35	男性(30歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	発熱(38.0) 紅斑 咽頭炎	4	女	2017/06/20	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(39.0) 下気道炎 鼻炎	0	女	2017/06/20	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱 上気道炎	0	男	2017/06/23	咽頭拭い液 鼻汁	ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(38.6) 気管支炎	0	男	2017/06/24	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス3型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.1) 鼻水 咳嗽 哺乳不良	0	女	2017/06/25	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス3型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.0)	0	男	2017/06/26	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス1型
その他の消化器疾患	腹痛	1	男	2017/06/03	糞便	レオウイルス

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載